

き れ い な 空 気 よ い 水 を 求 め て

会報 かんきょう

Vol.15



photo : 「清水港を出港する海王丸」田中 浩

県内優良施設見学研修会

(株)アマダ 富士宮事業所
富士フィルム(株) 富士宮工場 …1

事・例・発・表・会 …2

環境セミナー …3

東日本大震災被災地支援 …4

かんきょうにゆーす …5



この会報誌は古紙配合率 100%、
白色度 70%の再生紙を使用してい
ます。

「県内優良施設見学研修会」に参加して

■DATA■

平成23年11月16日(水)

①株アマダ 富士宮事業所 ②富士フィルム株 富士宮工場

今回の優良施設見学研修会は、季節的には紅葉を楽しめる富士宮でありましたが今年は暖冬で残念ながら紅葉を見る事は出来ませんでした。しかし2か所の素晴らしい工場の見学を会員企業26名と静岡市環境保全課・事務局2名と共に総勢28名で実施しました。

(株)アマダ 富士宮事業所

1. 会社概要

株式会社アマダは、主に金属加工機械の総合メーカーとしてグローバルな事業を展開しています。その中で富士宮事業所は富士宮市北山の23万坪の敷地内に1987年(昭和62年)に建設を開始して、現在は工場(第一・第二・レーザー専用工場)、パーツセンターそしてイノベーションセンターを稼働しグループの重要な役割を担っている事業所です。

2. 環境保全に対する取組

敷地の約60%(13万坪)を森林として残し、人工林の「ヒノキ林」また700種類の植物が確認され、なかには静岡県で絶滅危惧種IB類に指定されている着生ラン「カラヤン」などが生息している森林を保有しています。

さらに毎年世界環境デーに合わせて工場周辺地域の美化活動を行っています。

2010年4月には『エコでつながるモノづくり』の環境宣言を行う。内容は、

- ①商品のライフサイクルでCO₂排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献
- ②事業プロセスにおける省エネ・省資源を推進し、CO₂排出量を削減
- ③限りある資源の有効利用を促進し、循環型社会に貢献
- ④規制化学物質に関する取り組みを強化
- ⑤生物多様性の保全に資する「アマダの森」を推進

また、毎年環境報告書(Forest-In Office)を作成し、ホームページからも閲覧できるよう広く情報を公開しています。

3. まとめ

担当者のお話で「環境で東部(静岡県内)一番を目指す」と言う言葉の通り見学した工場内でも会う社員一人一人がその場で立ち止まり丁寧な挨拶。そして社員が手掛けている製品に対する品質管理体制の厳しさ、妥協しない物造りからも社員全員が環境宣言を理解し、取り組んでいる事が判りました。

また、教育訓練室の中に独自の発想で「環境道場」というコーナーを設け、クイズ形式で環境に関する問題を出してみたりしたユニークな取り組みを行っていたので、是非参考にしたいと思います。

次回は時間の関係で見学できなかった「アマダの森」の散策をしたいです。

富士フィルム(株) 富士宮工場

1. 会社概要

富士フィルム株式会社は、写真フィルム事業を足掛かりに1963年(昭和38年)富士山の南西山麓に位置する富士宮市に印画紙用パライタ及びパライタ原紙製造の工場として創業を開始しました。現在では各種PETフィルム、電子ディスプレイ材料、X-レイフィルム、写真用印画紙用紙などを生産する先進工場としてダイナミックに生産活動を続けております。

2. 環境保全に対する取組

1996年(平成8年)にISO14001環境マネジメントシステム認証取得

2001年(平成13年)に廃棄物ゼロミッションを達成

2005年(平成17年)「環境対話集会in富士宮」を開催
地域の住民(大人だけではなく子供も対象)との意見交換会を現在も定期的に行い、施設内を見学した参加者の意見を参考にさらなる環境保全活動に生かしています。

因みに2010年は企業・学校から228名の方々の見学があったとの事です。

また、富士宮市主催の「環境フェアin富士宮」にも出展し各種環境活動に積極的なコミュニケーション活動を展開しています。その一つとして「富士フィルム富士宮工場サステナビリティレポート」を毎年秋に発行し、希望者に配布しています。

2007年(平成19年)にガスエンジン型天然ガスコジェネレーション発電開始、

従来使用していた重油からガスに燃料転化し、CO₂排出量的大幅削減を達成。

3. まとめ

「富士フィルム富士宮工場サステナビリティレポート」を見ながら担当者と一緒に工場内を見学させて頂きました。工場設立から約50年経った工場とは思えないほど整備され、また排水処理施設や発電施設も最先端の技術を投入している様子が判りました。

その他に、地域の方との対話を大切に、工場周辺道路の清掃活動や富士山清掃活動にも社員の方が積極的に参加している取り組み方がとても参考になりました。

最後に、お忙しい中環境に対する説明と工場案内をして頂きました2工場の担当者の方々そして、毎回優良施設見学研修会の企画をして頂いている運営委員並びに事務局にはお世話になりました。ありがとうございました。

レポート：紅産業(株) 内田 勉



(株)アマダ
富士宮事業所



富士フィルム(株)
富士宮工場



事・例・発・表・会

■ 宇式エンジニアリング(株)
■ 三菱電機(株) 静岡製作所
■ 静岡市 環境局

□ 平成24年2月8日(水) □ グランシップ

レポート：静岡鉄道(株) 薬科孝佳

平成24年2月8日15時より16時30分までグランシップ2階映像ホールにて事例発表会が開催された。当日は宇式エンジニアリング(株)、三菱電機(株) 静岡製作所、静岡市 環境局 廃棄物政策課からそれぞれ報告をいただき、参加者は熱心に耳を傾けた。

報告終了後、発表者に対し静岡市環境保全推進協会より感謝状が贈呈され、今年度の事例発表会も盛況のうちに閉会となった。

ICTにおける 環境対策とCSR



宇式エンジニアリング(株)
サポートサービス本部
サービスビジネス部
八木秀之 氏

冒頭、宇式寛記社長より同社の環境方針について説明をいただいた後、八木氏より社内の環境活動および社外への環境展開について報告がなされた。

社内の取組としては、投入エネルギー削減と資源リサイクル化を主要テーマに選定し、エコアクション21ガイドラインをベースとしたマニュアルおよびエコアクションカードを作成した。また推進組織を9つの小グループ体制とし、それぞれに目標を設定、責任を持たせることで取り組みに対する従業員のモチベーションを向上させることに成功した。その結果、消費電力34%削減、印刷用紙購入量40%削減、紙ごみ廃棄量39%削減などの効果が表れている。

また、同社の電力削減にも大きく寄与したSDB (System Defender Box) などの環境にやさしいグリーンICTの提供を積極的に推進している。

JIT(Just in Time)活動を 活用した 生産時CO₂削減への 取り組み



三菱電機(株) 静岡製作所
製造管理部 工務課
工務課長
片瀬憲一 氏

三菱電機(株)は、グループ全体で2021年までに製品生産時におけるCO₂排出総量を30%削減することを「環境ビジョン2021」として掲げており、静岡製作所では3年間で3,603t - CO₂削減に取り組んだ。指標をCO₂削減量としたことにより、活動が確実に成果として表れるため、所員のモチベーションが向上した。また所内で定着していたJIT(必要なときに必要なものを必要なだけ必要な場所に届ける生産方式・在庫管理方式)活動とCO₂削減活動を融合させること、今まで意識がなかった生産現場改善の効果を省エネ効果として算出できる仕組みを構築し、この仕組みをエネルギー管理部門単独の活動から所内一丸の活動に拡大することにより、開発試験、製造設備の更新や改造による改善のみならず、稼働率改善・不良率削減の成果をCO₂削減として評価可能とした。結果として目標値を上回るCO₂削減を達成し、平成23年度の省エネ大賞(省エネ事例部門)を受賞した。

静岡市のごみ事情



静岡市 環境局
廃棄物対策部 廃棄物政策課
三木秀明 氏

静岡市では『環境共生都市しずおかの実現』を基本理念とした静岡市一般廃棄物処理基本計画を策定しており、その基本方針として、国が推進する3R(リデュース、リユース、リサイクル)に加え、そもそもゴミとなるものをもらわない・断るといった発生抑制=リフューズが最優先されるべきという考えの下、4Rを推進している。

現在静岡市の廃棄物処理施設としては西ヶ谷清掃工場と沼上清掃工場があり、沼上清掃工場では焼却施設、熔融施設に加え、平成23年に資源循環センターが完成した。

静岡市のゴミ総排出量は平成15年度をピークに毎年減少傾向にあり、平成22年度の一人1日あたりのごみ総排出量は1,108gである。静岡市ではこの数値を平成31年度までに1,000gにすることを目標としている。



環境セミナー

Friday, March 9, 2012

低炭素型住宅街区 「エコライフスクエア三島きよずみ」の紹介 — 家庭における分散型エネルギーの活用について —

講師 静岡ガス(株) 営業統括部 低炭素システムマネージャー 中井俊裕 氏

静岡ガス(株)創立100周年事業の一環として、低炭素社会の実現に向けた取り組みとなる、低炭素型タウン(分譲地)「エコライフスクエア三島きよずみ」が、平成23年2月23日三島市にオープンした。各戸に家庭用燃料電池「エネファーム」、太陽電池を設置し、さらに一部の住宅に蓄電池を導入することによりエネルギーの地産地消モデルを構築した。

燃料電池・太陽電池・蓄電池の3電池が同時に設置される住宅の販売は国内初、家庭用分野でのCO₂排出権取引も国内初となる。

低炭素社会の実現を、住宅部門のエネルギー供給のあり方から挑戦した取り組みについてお話を頂いた。

①土地開発のしくみ … 日当たりをよくし、太陽光発電の妨げになる電線を地中化した。

②住宅設備 … 高気密、高断熱住宅。1軒1台にエネファーム(水素と酸素から電気とお湯を作り出すマイホーム発電。発電時の熱をお湯にすることで利用率が大幅にアップする)太陽光発電と燃料電池の組み合わせによるW発電。ライフィニティECOマネシステム(商品名)を使用し、計量、モニタリング、データ集積を行う。

③省エネ推進 … 住宅内でエネルギーの「見える化」を図る。集積したデータを収集・分析し各家庭にエネファームの効率的な運転などの省エネルギー化、省CO₂化のアドバイスをを行い、1年間で削減されたCO₂を買い取る。

購入したクレジットを県内の事業者へ転売し、クレジットを地産地消するという。

農産物、水産物の世界で地産地消の推奨がいられているが、住宅部門でもその時がきている。ゼロエミッションハウスの建設など、無駄なく無理なくエコできる時代になった。

平成24年1月から電気自動車を導入しカーシェアリングも開始された。

省エネと節電について例にとって説明してくれた。

- ・白熱灯をLEDにかえた(省エネ)
- ・白熱灯を間引きした(節電)

講師の「節電はしてほしくない。が家の中に投入するエネルギーは減っていく」という言葉が印象的だった。

「きよずみ」が完成して1年が経過し、将来に向けて快適に過ごす為エネルギー使用量の削減を、年々楽しみながら行えるのも次世代に必要な環境だと思う。ムリをすれば亀裂が生じるが、エネルギー消費を生活の中で自然に楽しみながら行えば継続できるのではないだろうか？

これからの住まいのあり方について、夢のある暮らし方について一石を投じた取り組みになると感じた。

レポート：事務局 望月美和子





東日本大震災被災地支援に参加して

静岡市 環境局 廃棄物対策部 廃棄物政策課 佐藤 弘和

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とその後の津波は、多くの自治体に甚大な被害をもたらし、膨大な量の災害廃棄物が発生しました。その災害廃棄物の迅速な処理は復興の第一歩であり喫緊の課題となりました。

静岡市環境局は、平成23年4月上旬に社団法人全国都市清掃会議からの要請に基づき、宮城県宮城郡七ヶ浜町へ災害廃棄物の処理に関して支援を行いました。支援期間は、平成23年4月15日から平成23年6月30日までの計70日間、塵芥車2台、トラック2台、延べ953人態勢で主に仮置場に持ち込まれた災害廃棄物を焼却施設へ運搬する業務を行いました。

私は、平成23年5月30日から平成23年6月5日までの7日間、派遣職員として支援に従事しましたので、派遣を通じて感じたことを書いてみたいと思います。

まず、仮置場に持ち込まれ、積み上げられた災害廃棄物の山に圧倒されました。仮置場は火力発電所の灰捨て場で広大な敷地面積を有していましたが、そのあちらこちらに高さ10m以上の災害廃棄物の山があり、次々に運び込まれる災害廃棄物を重機でさらに積み上げていく状況でした。

運び込まれてくる災害廃棄物は、燃える物、燃えな

い物、大きさも様々なものが混然一体となっており、私たちが担当する業務は、それら災害廃棄物の山から燃えるごみのみを選別し、塵芥車に積み込む作業でした。通常のごみ収集とは異なり、足場はぬかるみ、又、釘やガラスが飛び出している災害廃棄物の中から燃えるごみのみを抜き出す作業は、著しく効率の悪い作業であり、危険なものでした。

派遣期間中、何軒かのお宅の敷地内の災害廃棄物の処理にも従事しました。何日もかかって、家族総出で片づけをしたごみを、私たちが塵芥車に積み込むとほっとしたというか、ありがたいという表情で見送ってくれたことを覚えています。私たちにとっては、ある1軒のお宅のごみ収集であっても、そこに住んでいる人にとっては、これからはスタートなのだと思います。

静岡県においても、いつ何時駿河湾を震源とする大地震が来るかわからない状況であり、その際発生する災害廃棄物の処理についても事前に十分に考えておく必要があります。今回の災害派遣は、1週間と短期間ではありましたが、自分の目で災害廃棄物の状況を見て、自分の手で積み込み作業を行いました。この経験を十分に生かして今後の業務に役立てていきたいと考えています。

事務局からのお知らせ

通常総会の開催について

通常総会の日程が決まりましたのでお知らせいたします。

1. 日時 平成24年5月23日（水）
2. 会場 静岡グランドホテル中島屋
3. 時間 理事会 14時30分
通常総会 15時00分
講演会 15時50分
意見交換会 17時10分

三保クロマツ植樹地

10月22日（土）第2回下草刈りは、雨天の為中止になりました。

また、9月21日に発生した台風15号の影響で、三保地区に植樹したクロマツの上に倒木がありますが、4月以降県中部農林事務所に対処することになっています。



水質汚濁防止法の一部を改正する法律が施行されます。

平成24年6月1日

改正の背景

環境省の調査によると、事業場等からの有害物質の漏えいによる地下水汚染事例が、毎年継続的に確認され、その中には、事業場等の周辺住民が利用する井戸水から検出された例もあることが判明しました。これを受けて環境省は、地下水汚染の未然防止のための実効ある取組の推進を図る必要があると判断し、この度、水質汚濁防止法の一部を下記のように改正し、事業場等における有害物質の非意図的な漏えいや、床面等からの地下浸透の防止を図ることとなりました。

改正の概要

1. 対象施設の拡大

有害物質を貯蔵する施設等の設置者は、施設の構造等について、市長に事前に届け出なければならないこととなります。

2. 構造等に関する基準遵守義務等

有害物質を貯蔵する施設等の設置者は、構造等に関する基準を遵守しなければならないこととなります。また、市長は、当該施設が基準を遵守していないときは、必要に応じ命令できることとなります。

3. 定期点検の義務の創設

有害物質を貯蔵する施設等の設置者は、施設の構造・使用の方法等について、定期的に点検しなければならないこととなります。

このことについての説明会を開催します。詳しくは、静岡市環境保全課ホームページをご覧ください。

詳細につきましては、環境保全課水質担当までお問い合わせください。TEL.054-221-1359

【平成24年3月31日現在会員数】 174事業所

随時会員を募集しております。
詳細は事務局までお問い合わせください。

【発行】 静岡市環境保全推進協会
【事務局】 〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡庁舎 環境局 環境創造部 環境保全課内
TEL054-221-9373 FAX054-221-1186
ホームページURL <http://www.shizuoka-kankyosuishin.jp/>